

## 令和3年度地域包括支援センター事業評価と計画（令和3年11月末時点）

## 印旛地域包括支援センター

事業ごとの評価と計画	
総合相談支援業務	797件の相談があり、電話相談が407件と一番多かった。相談者は、子や配偶者で内容は介護保険に関する相談が最も多かった。住民の複合化する課題に対して横断的な支援を「見立て」「見極め」「タイミング」の対応・判断動作で迅速に行えるよう心掛けてきた。対象者や家族との信頼関係の構築を第一とし、訪問を繰り返すなど支援が長期に及ぶ傾向もあった。
権利擁護業務	虐待相談件数が9件と、前年と比較して増加傾向にあった。成年後見制度の相談が3件と増えており、制度が少しずつ浸透してきていると思われる。権利侵害（虐待、成年後見、消費者被害）を受けている高齢者に対し、社会福祉士を中心に専門的な支援を行っている。周知や理解を得るために市民に対しては地域のサロンや民生委員会議等の参加時に広報活動を行っている。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	ケアマネージャーからの相談として、家族間の調整・サービス提供に関するもの、複合化する課題を抱えたケースが多く、同行訪問・助言により総合調整や後方支援をしてきている。 今年度は、介護支援専門員の後方支援として、コロナ禍によりオンラインでの研修が増えたことから、5包括共同で「いんばケアマネネットワーク」にて、ZOOM練習会を企画、実施した。
地域ケア会議推進事業	個別会議2回、推進会議を1回行った。認知症を患う高齢者世帯の在宅生活の困難点、地域での見守り・支援の方法、緊急時に活用してもらいたい印西市救急医療情報キットの普及・啓発について圏域のケアマネージャーを中心に迅速な対応に結び付けられるように協力の依頼をした。
在宅医療・介護連携推進事業	第1回在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に出席し、市の事業計画を共有した。
認知症施策推進事業	認知症カフェ6回計画し、4回実施した。その都度、感染症対策を講じながら、人数を4～5名程度で当事者中心の少人数で行い、当事者は、包括に相談のあつ

	<p>た方、近所や病院から心配な方ですと情報を頂いた方々で占めていた。地域住民への周知活動も引き続き行っていたので、参加への問い合わせも増加傾向であった。</p>
生活支援体制整備事業	<p>戸外で行うあおぞらカフェ3回、にっこりカフェ2回を開催した。JAの食料品の移動販売日にドッキングをし、開放的な戸外で地域の方々の交流を深めながら、介護予防の出前講座や認知症予防の取り組みなどにも積極的に働きかけを行った。継続開催を希望する声も多く聞かれ、次年度は、実施回数を増やしての計画を立案している。</p>
介護予防ケアマネジメント業務・指定介護予防支援業務	<p>介護保険制度の基本理念「尊厳の保持」「自立支援」を念頭に、要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者に対して、自立支援を目的に主体的な取り組みが出来るよう、介護予防サービスに加えて住民全体の通いの場等の地域資源の活用も視野に入れた効率的なケアマネジメントを行ってきている。</p>
一般介護予防業務	<p>○介護予防把握事業→早期介入が必要なハイリスク者に対し適切・柔軟に対応を引き続きしてきている。 ○介護予防普及啓発事業→市と協働しながら、事業の展開方法を今後も検討・実施していく。 ○地域介護予防活動支援→いんざい健康ちょきん運動の後方支援を通して地域住民との関係づくりを行い、活動が継続できるように支援していく。又活動が行われていない地域での普及促進に取り組んでいく。</p>
令和3年度事業中間評価（総括）	
<p>*コロナ禍で相談件数が増加、内容も複雑・複合化してきているため、一つのケースに頻回な対応を行うということが増えている。 *多職種・他機関と連携・協働して対応したケースも増加の一途をたどっており、今後も、スムーズな援助対応が必須を思われ、他機関とのネットワーク作りの必要性が重要と感じている。 *令和2年度がコロナ禍であったため、高齢者の活動の場が狭められていました。緊急事態宣言解除後は、徐々に活動の場が増えつつあるものの、外出する機会が中断したことにより意欲低下がみられる方もおり、電話や訪問により実態把握をし様子を伺い、少しずつ元の生活を取り戻せるように支援を続けていく必要性を実感している。 *昨年は開催できなかった認知症に関する普及啓発活動（出前講座や認知症コーディネータ養成講座等）も参加者を募り、周知活動を積極的に行い、事業に取り組んで行</p>	

きたいと思っている。

\*印旛地域の住民の皆様、今地域で起きていること、今後起きるであろうことを知っていただき「地域に関心を持つ」「気にかける」気持ちを育てて行ってもらいたいと思っている。助け合い活動は、助けを必要とする人が見えることで広がり、そして、互助活動は我がごとであり、自身の元気にもつながっていることを地域に広めていきたいと思っている。